

# 三井本館



アカンサスの葉の彫刻が据えられた柱頭と、三井が扱う事業・業種を表わしたレリーフの一部（左が算数を表わす地球儀・星・定規等。右が化学を表わす蒸留器・試験管）



黒と白でデザインされた美しい床石







華やかな装飾に彩られた格子天井

「二」 井財閥の本拠地として、昭和4年（1929年）に建設されたのが三井本館である。

設計は、ニューヨークを拠点とするトロブリッジ&リヴィングストン事務所。20世紀におけるアメリカの新古典主義的なデザインが採用された。

建築のコンセプトは「壮麗」「品位」「簡素」。地上5階（1階に中2階が連続するため実質7階）地下2階の鉄筋コンクリート造りで、外装にはすべて花崗岩

#### DATA

名称 三井本館  
所在地 東京都中央区日本橋室町2-1-1  
完成 昭和4年  
設計者 トロブリッジ&リヴィングストン事務所

が使用されている。

道路に面した三面に、壮麗な古代ギリシャ風の円柱が並ぶ。その柱頭にはアカンサス（葉アザミ）の飾りが、さらにその上部には三井財閥の各社が手がける事業や、その精神を象徴するレリーフ（工業・化学・海運業・農業・為替・勤勉・公平など12種類）が施されている。

普段、内部は非公開だが、令和6年（2024年）5月に開催された東京建築祭の折に、開館当時の趣を残す「合名玄関」の内部が公開された。

合名玄関の床や壁、カウンターはイタリア産の大理石で整えられ、床面には、黒と白の模様が描かれ、天井は美しい青と白の格子状に組まれている。

美しさだけではなく、この建築自体が現存する最古のアメリカンタイプの「オ

フィスビル」であることも特筆すべき点である。全館冷房、強制換気、火災報知システム、屋内消火栓の半自動化など、近代オフィスビルのモデルといえる設備が組み込まれている。

現在でも使用されているエレベーターも、そのひとつだ。扉周りの曲線模様の細工、金属製の扉の彫込み細工、ひとつの部屋のように整えられた内装は当時と変わらぬ優美さを保っている。

平成10年（1998年）に国の重要文化財に指定され、平成17年には東京都の定めた「重要文化財特別型特定街区制度」（重要文化財とビルを一体と考え、街区容積割増を500%まで認める制度）の第1号の適用を受ける。それにより建物の維持と、日本橋三井タワーの建設を合わせた開発がなされた。



彫込みの装飾が見事なエレベーターの金属扉

